

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	現代の国語	I	全	2

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、課題テスト、小テスト、課題など	課題、課題確認テスト、定期考査、小テスト、プレゼンテーションなど	課題、授業準備、授業態度、レポート、小テスト、やり直し、プレゼンテーション、ノート提出など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	<p>【読む】 『こそそめスープ』『ルリボシカミキリの青』『未来をつくる想像力』『水の東西』</p> <p>【話す・聞く】 気になるニュースについて話そう 分かりやすい説明をしよう</p> <p>【書く】 集めた情報の内容を検討し意見文を書こう</p>
2学期	<p>【読む】 異なる種類の文章を読み比べよう 『無彩の色』『鍋洗いの日々』『美しさの発見』</p> <p>【話す・聞く】 発想を広げる方法を使って話し合おう</p> <p>【書く】 新聞記事を読んで意見文を書こう</p>
3学期	<p>【読む】 『スキマが育む都市の緑と生命のつながり』『真の自立とは』</p> <p>【話す・聞く】 資料を活用して発表しよう</p> <p>【書く】 読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう</p>

■何で学ぶか(教材)

教科書:「新編現代の国語」東京書籍
副教材:「新編現代の国語 学習課題ノート」東京書籍
「常用漢字クリア」尚文出版

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

文章の構成や言葉のもつ意味や価値に対し、自ら論理的に考え想像力を働かせようという姿勢をもつこと。また、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を見つけ、文章やプレゼンテーションをとおして自らの考えを他者に分かりやすく伝えるとともに、多様な視点から物事を見ようとする姿勢をもって学びに向かうこと。

(補足)
授業の目的に応じて、タブレット等の情報機器を適切に活用し、自らの学びに必要な情報を収集し、学びの成果を発信する能力を身に付けること。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	言語文化	I	全	2

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題など	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題など	課題、授業態度、成果物など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	【現代文編】 『さくらさくらさくら』『美しい』ということ』 【古文編】 古文に親しむ『児のそら寝』『絵仏師良秀』 【漢文編】 訓読の基本 故事成語『守株』
2学期	【現代文編】 『とんかつ』『羅生門』『柳あをめる』『雪の深さを』 『冬が来た』『少年の日』『I was born』 【古文編】 『徒然草』『枕草子』『折々のうた』『伊勢物語』 【漢文編】 絶句と律詩『論語』
3学期	【現代文編】 『夢十夜』『デューク』 【古文編】 『平家物語』『奥の細道』 【漢文編】 『曹公戦於白馬』『曹公以関羽為義』『魏武捉刀』

■何で学ぶか(教材)

教科書:「新編言語文化」東京書籍
副教材:「新編言語文化 学習課題ノート」東京書籍

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

単に説明を聞き、文章の内容を形式的に理解するのではなく、文章の構成や言葉のもつ意味や価値に対し、自ら論理的に考え想像力を働かせようという姿勢をもつこと。また、授業の中で自らの考えを他者に分かりやすく伝える工夫をこらし、多様な視点から物事を見ようとする姿勢をもって学びに向かうこと。

(補足)
授業の目的に応じて、タブレット等の情報機器を適切に活用し、自らの学びに必要な情報を収集し、学びの成果を発信する能力を身に付けること。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
地理歴史	地理総合	I	全	2

■目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
評価方法	定期考査、レポート(ワークシート) 準拠ノート、授業プリント	定期考査、レポート(ワークシート) 準拠ノート、授業プリント	授業準備、授業活動(自己評価含む) 準拠ノート、授業プリント
割合	35%	35%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 2節 産業の発展と生活文化 3節 言語・宗教と生活文化 4節 グローバル化の進展と生活文化 3章 地球的課題と国際協力 1節 人口・食料問題
2学期	2節 居住・都市問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 地球環境問題 4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災 2節 持続可能な地域づくり
3学期	1章 地図とGISの活用 1節 地球上の世界 2節 国家の領域と領土問題 3節 国内や国家間の結びつき 4節 日常生活のさまざまな地図

■何で学ぶか(教材)

教科書:「わたしたちの地理総合」(二宮書店)
地図帳:「コンパクト地理総合地図」(二宮書店)
副教材:「わたしたちの地理総合ワークブック」(二宮書店)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

テーマごとに提示される学習課題について、教科書に記載されている本文や資料群または地図帳等を活用し、個人またはグループを通して、課題へのアプローチをしていく。また、内容をさらに深めるために、タブレットを活用し教科書のQRコード動画や画像を活用していく。
上述のような学習活動と並行して、1テーマごとに該当する準拠ノート(作業含む)をまとめることで、授業内容の定着を目指していく。
また、学習を通じて、世界各地の生活文化や地球的課題等への関心度も高めてもらいたい。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
数 学	数学Ⅰ・A・Ⅱ	Ⅰ	全	3+2+1

目標

- 1 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
- 2 事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培う。
- 3 数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容を理解する。 ①教科書の各単元の基本例題、練習問題を解き、その解法を理解する。 ②公式を理解する ③公式や技法を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ●難易度の高い問題を考察したり、解法を理解したりする。 ①難しい課題と向き合い、根気強く解法を理解する。 ②習得した技法や解法を応用し問題解決に取り組む ③答案として洗練された解答を書き、独自の別解を編み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の課題や授業プリントをきちんと解き、提出期限を守る。 ●授業時の発問に対し自分の意見を述べ、指示された活動を積極的に行う。 ●主体的に授業に取り組む。
評価方法	定期考査、小テスト、課題、授業プリント、振り返りシート	定期考査、小テスト、授業プリント、振り返りシート	課題、授業に取り組む姿勢、授業プリント、振り返りシート
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	(数学Ⅰ) 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式
2学期	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 第2章 集合と命題 (数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形
3学期	(数学Ⅱ) 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 (数学Ⅰ) 第5章 データの分析 第1節 データの分析 (数学Ⅱ) 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式

■何で学ぶか(教材)

教材
教科書 改訂版新編数学Ⅰ 改訂版新編数学A 新編数学Ⅱ
補助教材 Study Up ノート数学Ⅰ+A、数学Ⅱ
授業プリント 日々の課題 スタディサプリ

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

授業の方法・学び方
1 始業前に学習準備をする
2 (状況に応じて)小テストやスタディサプリを解く
3 授業活動を行う
ケースⅠ ①教師による例題等の解説
②板書書写と内容理解
③練習問題を解く
④公式や解法の理解が深化する。
ケースⅡ ①発展問題を各グループに提示する
②グループ内で切磋琢磨し、解法を導く。
※必要に応じて教師の助言や他グループの考察を取り入れる。
③解法を発表し、クラスで吟味する。
④学んだ内容を確認にまとめ作業を行う。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	科学と人間生活	I	全	2

■目標

自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに関与を与え、どのような役割を果たしてきたかについて、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学に対する興味・関心を高め、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	自然の事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。	人間生活と関連のある自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を通して、科学的に探究する力を育てる。	生徒の学習意欲を喚起し、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探究しようとする態度を育てる。
評価方法	定期考査、小テスト、課題	定期考査、小テスト、実験レポート	課題、レポート、考査訂正 プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1編 生命の科学 1章 微生物とその利用 2章 ヒトの生命現象 2編 物質の科学 1章 衣服と食品
2学期	2章 材料とその再利用 3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用 2章 熱の性質とその利用
3学期	4編 宇宙や地球の科学 1章 自然景観と自然災害 2章 太陽と地球

■何で学ぶか(教材)

・教科書:改訂 科学と人間生活(東京書籍)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

中学校の既習内容の復習をはじめ、身近な自然科学に興味を持ち、日常生活と関連付けて学ぶ。

教科書の写真や簡易実験、QRコードによる動画視聴などを用いて、学習内容のさらなる定着を図る。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	体育	I	全	3

■目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価方法	技術・技能テスト	グループノートの活用 段階別練習方法の工夫と実践	グループ活動の実践 用具準備・片付け活動 審判等の係活動実践
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1 体づくり運動 2 選択Ⅰ【器械運動・ダンス】 (器械:マット・跳び箱) (ダンス:現代的なリズムダンス) 3 体育理論
2学期	1 選択Ⅱ【球技・武道】 (球技:ソフトボール・サッカー・バスケット・バレー) (武道:柔道) 2 陸上競技(長距離走) 3 体育理論
3学期	1 選択Ⅲ【球技・武道】 (球技:サッカー・バスケット・バレー・バドミントン・卓球) (武道:柔道) 2 体育理論

■何で学ぶか(教材)

現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

<p><授業の方法></p> <p>各単元の特性と魅力を理解させ、基本的技能の向上の方法について、模範演技などを行いながら段階別練習法などを提示する。また、特性に応じたグループ編成を行い、生徒同士が主体的に活動できる場を提供する。</p> <p><学び方></p> <p>各単元における特性や技能上達及び安全管理の方法について説明を聞き、基本的な技能の向上を目指すだけでなく、他者を認め、個の特性を生かした表現方法を工夫しながら、積極的に活動に参加する態度を身に付けること。</p>

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	保健	1	全	1

■目標

保健の見方や考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。
評価方法	定期考査 保健体育ノート活用 技能テスト(応急手当・心肺蘇生)	グループワーク活動 保健体育ノート活用	授業準備 グループワーク活動
割合	40%	30%	30%

■何で学ぶか(教材)

現代高等保健体育
現代高等保健体育ノート

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	<現代社会と健康> 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康
2学期	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防
3学期	18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり <安全な社会生活> 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

<授業の方法>

各単元において、教科書・副教材に対応したパワーポイント作成やタブレットによる調べ学習など視覚的分野から興味関心を高める授業を展開するとともに、言語能力を育成するためグループ活動による課題解決活動を取り入れ、生徒が協力して課題解決に向けて思考判断することができるようにする。

<学び方>

各単元における知識を理解するとともに、グループワークの中でお互いに協力し合って意見を出し合い、課題解決に取り組む。知識については、教科書を中心とした各単元のキーワードを副教材を利用しながら学ぶ。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
芸術	音楽 I	I	全(選択必修)	2

■目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	音楽の基礎的、基本的な知識を習得し、曲想と音楽の構成や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴く力を養う。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	課題提出、小テスト、実技テスト	確認テスト、小テスト、提出課題 実技テスト	確認テスト、小テスト、提出課題 自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	楽典基礎・基本、応用 歌唱(校歌、発声の基礎基本、イタリア歌曲、他) 器楽(ボディーパーカッション) 鑑賞(西洋音楽を中心に)
2学期	舞台発表 器楽(ギター) 歌唱(合唱曲、日本歌曲、ドイツ歌曲、他) 鑑賞(伝統音楽を中心に)
3学期	器楽(和楽器“三線”、ハンドベル) 歌唱(合唱曲、独唱曲、二重唱、他) 鑑賞(舞台音楽を中心に)

■何で学ぶか(教材)

・教科書「MOUSA①」(教育芸術社)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

主体的な学習の姿勢が基本である。学習した音楽を単に演奏するのではなく、どのようにしたら良い音を奏でることができるのか、創意工夫を重ね、模範演奏を参考にしたり、他者の演奏からヒントを得たりして、自分の演奏の質を高めること。音楽の基礎・基本的な知識を習得し、楽譜の中から作者の意図を読み取り、自分の演奏や記述に生かすこと。

(補足)

毎時行う自己評価によって成長度合いや主体性、理解度を確認する。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
芸術	美術 I	I	全(必修選択)	2

■目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えることができる。 主題を生成したり、発想や構想を練ったりすることができる。 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組むことができる。
評価方法	作品 ワークシート	作品、 自己評価 鑑賞シート	制作活動の記録 作品 課題 作品発表
割合	30%	40%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	鑑賞「なぜこれが美術なのか？」 表現「見えないなにかを形で表す」 絵画「身近なものを描く」 表現「額縁をつくる」
2学期	鑑賞「日常にあふれるデザイン」 デザイン「〇〇のデザイン」 映像「カメラ・オブスクラをつくる」
3学期	絵画「私の見つけた風景」 デザイン「暮らしを彩るデザインを考えよう」

■何で学ぶか(教材)

教科書「新・高校生の美術I」(日本文教出版)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

作品制作では、構想を練るためのアイデアスケッチなどを行い、しっかり構想を練って表現の工夫をすること。また、作品は必ず完成させて提出すること。
作品鑑賞では、作品から感じとったことを記述したり、発表したりするなどし、他者の意見や感想を比較しながら、ものの見方をより深めていく。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Communication I	I	全	3

■目標

- 短めの対話やアナウンス、事物に関する紹介を聞いて、詳細な情報を聞き取ることができる。(聞くこと)
- 事物に関する紹介や対話、簡単な図や掲示物、説明文や物語等を読み、詳細な情報を理解することができる。(読むこと)
- 読んだり聞いたりした内容について、簡単な英語を使い自分の意見を言うことができる。(話すこと)
- 日常生活での話題について、ある程度まとまりのある文章を英語で書くことができる。(書くこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	各 Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語(句)や Grammar や Interaction の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身に付けている。	質問の意図を理解し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり、書いたりしている。	身近なテーマに関する設定を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現したりしようとしている。
評価方法	授業、定期考査、課題考査、小テスト、課題	授業(発表等を含む)、定期考査、課題考査、小テスト、課題	授業(発表等を含む)、課題、小テスト
割合	30%	30%	40%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	Lesson 1 Fonts and Communication Lesson 2 Beavers: Eco-Friendly Animals Lesson 3 Alternative Foods
2学期	Lesson 4 Messages from Winne-the-Pooh Lesson 5 Endangered Languages Lesson 6 Musicians of the Metro Lesson 7 A Wheelchair Traveler Lesson 8 The Progress of Keys
3学期	Lesson 9 Kadono Eiko and the Power of Imagination Lesson 10 Toward a Sustainable World

■何で学ぶか(教材)

MY WAY English Communication I Data Base I 700 使える英単語・熟語 [3rd Edition] Vision Quest 総合英語 Ultimate [3rd Edition] Treasure Hunt 0 Listening Essentials I 六訂版 Zoom English Grammar 23 Lessons

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

中学校の外国語の授業で学んだ内容を元に、支援を受けながら Speaking、Writing、Reading、Listening の四技能を統合的に学ぶ。授業中の言語活動への積極的な参加を求める。英単語は Data Base I 700 を用いて小テストを実施する。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Logic and Expression I	I	全	2

■目標

- 中学校の学習内容を踏まえ、英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きの役割を理解している。
- 一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを簡単な文や語句を用いて話して伝えることができる。(話すこと)
- 日常的・社会的な話題について、意見や主張などを簡単な文や語句を用いて書くことができる。(書くこと)
- 短めの対話やアナウンスを聞いて、情報の概要を聞き取ることができる。(聞くこと)
- 事物に関する紹介や対話、簡単な図や掲示物等を読み、情報の概要を理解することができる。(読むこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを簡単な文や語句を用いて、話したり、書いたりできる技能を身に付けている。	目的や場面、状況に応じて自分の意見や主張などを簡単な文や語句を用いて、凡そ話したり書いたりできる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的に平易な表現で伝えようとしている。
評価方法	授業、定期考査、課題考査、小テスト、課題	授業(発表を含む)、定期考査、課題考査、小テスト	授業(発表を含む)、定期考査、課題考査、小テスト
割合	30%	30%	40%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
I 学期	LEESSON 1 Let's Talk about ourselves LESSON 2 School Life LESSON 3 The Arts LESSON 4 Food and Culture
2 学期	LESSON 5 Welcome to Our Town LESSON 6 Traveling Abroad LESSON 7 Sports LESSON 8 Future Mobility
3 学期	LESSON 9 Take Care LESSON 10 Technology Changes Our Lives

■何で学ぶか(教材)

MY WAY English Logic & Communication I
Vision Quest 総合英語 Ultimate
Zoom English Grammar 23 Lessons

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

教科書の各課は Part 1 と Part 2 に分かれている。Part 1 ではトピックに関する会話の語彙やパターンを学び、Part 2 では Part 1 で学んだことを基に、スピーチをしたり、発表をしたり、レポートを書いたり等、Writing や Speaking の活動に広げていく。

Useful Expressions をマスターし、単語や時制を変えることで、自分が書きたい内容の文章が書けたり、話せたりすることを目指していく。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
家庭	家庭基礎	1	全	2

■目標

目標
 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	定期考査、実習記録、実技テスト、小テスト、	定期考査、実技テスト、実習記録、小テスト、レポート	課題、授業準備、レポート、やり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	40%	20%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1章 自分らしい生き方と家族 第5章 食生活をつくる 学校家庭クラブとホームプロジェクト
2学期	第2章 子どもとかかわる 乳幼児ふれあい体験 第3章 高齢者とかかわる 第4章 社会とかかわる 第6章 衣生活をつくる
3学期	第7章 住生活をつくる 第8章 消費行動を考える 第9章 経済的に自立する *調理実習は年間を通して行う予定

■何で学ぶか(教材)

教材	
「図説 家庭基礎」	(実教出版)
「図説 家庭基礎 学習ノート」	(実教出版)
「家庭科55デジタル+」	(教育図書)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

将来の社会人として、基礎基本的な知識・技能をしっかりと身に付ける。
 実生活との関連をしっかりと理解させ、自分のこととして考え、行動できるようにする。
 実験・実習を中心とした指導を行う。
 実践的・体験的な学習活動を充実するとともに、生活の中から問題を見いだしその課題を解決する過程を重視する。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
情報	情報 I	I	全	2

■目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解し, 技能を身に付けているとともに, 情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら, 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 小テスト、課題、実技テスト	課題確認テスト、定期考査 小テスト、レポート	課題、授業態度、授業準備、レポート、やり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1章 情報社会の問題解決 第2章 デジタル化と情報デザイン 実技:文書処理ソフトウェア
2学期	第3章 コンピュータとプログラミング 第5章 問題解決 実技:表計算ソフトウェア
3学期	第4章 ネットワークとデータの活用 第5章 問題解決 実技:プレゼンテーションソフトウェア

■何で学ぶか(教材)

教材 ・教科書「情報 I」 (第一学習社) ・副教材「情報 I 学習ノート」 (第一学習社)
--

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

<p>授業の方法・学び方</p> <p>講義と実技の内容をバランスよく配置し、講義で学んだ内容を作品作成や実技テストなどで活かしていくことを目指す。</p> <p>またモラルやセキュリティに関しては、実生活での活用も目指し、日常生活との関連についてもしっかりと理解し、判断力を身に付けること。</p> <p>データ分析や文書作成など、日常生活や今後の生活で必要な基本的なスキルをしっかり身に付けること。</p> <p>(補足)</p> <p>パソコン室での授業を通して、実技試験や小テストなども活用し、理解度を確認する。</p>
--